

[フェンシング] 関東学生リーグ戦

女子フルーレ12度目の優勝

フェンシングの関東学生リーグ戦が4月15日から29日まで、駒沢公園屋内球技場で行われ、女子がフルーレで7年ぶり12度目の優勝を果たし、全日本学生王座決定戦への出場を決めた。

舟山紗智主将(経済4・米沢東高)は「昨年は勝ちを意識しすぎていたが、今年はそれぞれ自分の力を出すことに集中できたことが勝因です」と話した。また、エペ3位、サーブル4位、総合で3位という結果を踏まえ「トーナメント方式の全日本学生王座では一つのミスが命取りになるので、ミスをしないことが大事」と語ってくれた。



▲優勝した女子フルーレのメンバー

男子はフルーレ4位、エペ3位、サーブル6位で、総合で4位だった。

アジア・ジュニア・カデ 阪野が団体・個人優勝

5月8日、クウェートで行われたアジア・ジュニア・カデフェンシング選手権に、阪野弘和(経済1・武生商業高)が日本代表として出場。男子フルーレで団体・個人ともに優勝を飾った。

「個人戦はチームメイトと『決勝で会おう』と誓い合って臨んだ。仲間と励ましあって結果を残せたので、個人戦だけでなく、団体での優勝もうれしい」と喜びを語った。



▲表彰台で喜ぶ阪野(中央。右写真も)

(木村 太一・法3)

[野球] 東都大学野球春季リーグ戦<2部>

諦めない、最後まで

4月1日に開幕した東都大学野球春季リーグ戦(2部)も、5月15、16日の東農大戦を残すのみとなった。5月14日現在、6勝3敗の勝ち点3で2位。自力優勝はなくなったが、可能性はまだ十分に残っている。長谷高成泰監督の「まだまだあきらめず、1試合ずつきっちり勝っていききたい」との言葉どおり、最後まで戦い抜く専大の強さを見せてほしい。

(文・写真とも田口 能成・経済2)

優勝の可能性残し、現在2位

湯本五十六(商1・藤代高)ここまで3勝を挙げ、5月8日、中大戦で初完投勝利。「1試合も落とせない状況の中で結果を出せて良かった。自分自身に厳しくこれからも頑張っていきたい」

松本哲也主将(経営4・山梨学院大附属高)主将として、リードオフマンとしてチームを引っ張る。「攻守両面でオープン戦から挑戦している勝ち方が実戦できている。三者凡退をなくす、守り勝つ野球を続けていきたい」

※試合は終了しました。結果は[スポーツ情報・野球部](#)のページをご覧ください。



▲力投する湯本



▲チームを引っ張る松本主将

[レスリング] JOC杯ジュニアオリンピック選手権

フリー120級 ホープ荒木田 圧勝

グレコ 大谷、矢野、平川は準優勝

4月22、23日、横浜文化体育館で、JOC杯ジュニアオリンピックレスリング選手権が行われ、フリースタイル120kg級で荒木田進謙(経済1・光星学院高)が見事優勝を果たした。

アジア・ジュニア選手権(7月17～23日＝アラブ首長国連邦・アブダビ)と、世界ジュニア選手権(8月29日～9月3日＝グアテマラ・グアテマラ市)の代表選考会を兼ねた今大会。

荒木田は2年連続高校三冠(選抜、インターハイ、国体)を達成し、昨年の全日本選手権で堂々2位となった期待のホープ。大学生として初めての試合でも、他をまったく寄せつけない試合運びで難なく勝ち上がり、決勝も3-0で勝利した。「周囲の期待もあり、プレッシャーを感じていたが、優勝してホッとした」と本音を語ってくれた。

また、グレコローマンスタイルでは50kg級の大谷康太(文1・向上高)、84kg級の矢野将章(経済2・広陵高)、120kg級の平川臣一(商1・三井高)が準優勝。フリースタイルでは66kg級の細越孝紀が3位入賞を果たした。

今後もさらなる成長に期待し、専大レスリング部を応援しよう。

(文・写真とも 清水 智之・ネット情報3)



▲中央がフリー120kg級優勝の荒木田



▲グレコローマン84kg級準優勝の矢野(右)

[卓球] 関東学生新人選手権

男女ともダブルス準優勝 シングルス森田は準優勝

関東学生卓球新人選手権が4月27、28日、駒沢体育館で行われ、専大ルーキー陣が男女共に好成績を残した。ダブルスで男子の徳増信弥(経済1・杜若高)・森田翔樹(商1・青森山田高)組と、女子の有坂美里(文1・武蔵野高)・渡邊美里(文1・明德義塾高)組がともに準優勝。シングルスでも森田が準優勝、徳増が3位、有坂がベスト8入りを果たした。

男子ダブルスは、優勝候補として第1シードで出場。実力通り順調に決勝へコマを進めた。しかし桑原・松竹組(駒大)の流れを断ち切れず惜敗。優勝を目指していただけに、試合後2人は「悔しい」と口をそろえ、雪辱を誓った。

女子ダブルスの有坂・渡邊組は決勝で唐沢・日高組(東京富士大)と対戦。唐沢は有坂の高校時代のペア。お互いのプレーをよく知る者同士、有坂も相手の弱点を狙って攻めたが、及ばなかった。

森田は関東ナンバーワンルーキーとの前評判通り、シングルスでも順調に勝ち上がったが、決勝で森田(中大)に完敗。今後の課題として「体力面の強化が必要」と述べた。

(橋本 麻未・経済3)



▲表彰された男女ダブルスペア(左上から徳増、森田、左下から渡邊、有坂)



▲男子シングルス準優勝の森田(撮影・中西)